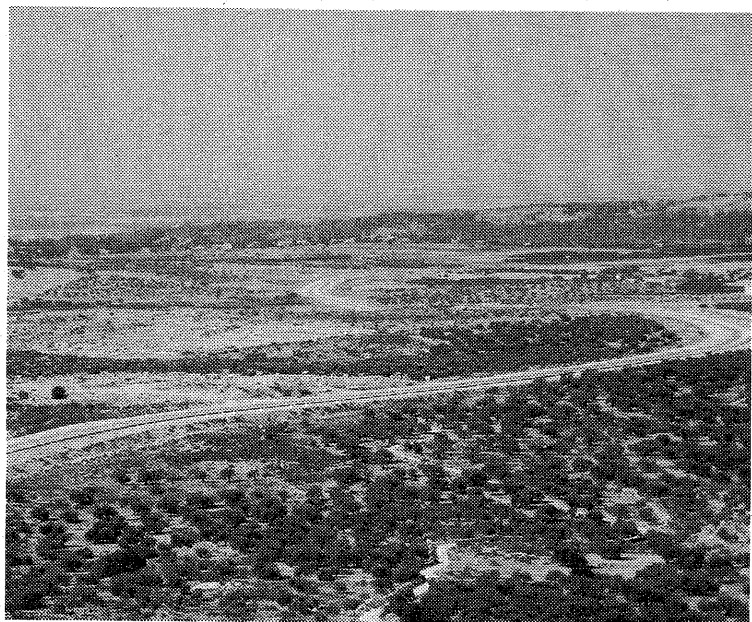


Freedom for Palestine! International Solidarity

パレスチナに自由を! 連帯を!

《シリーズ》 横 渡

③ イスラエルの占領政策 バンツースタン化・隔離



イスラエルが建設した「隔離壁」によって農地が分断されたジェイユース村

オリーブ摘み 援農ツアーに

10月20日から30日までの10日間、私は、2002年6月以来3年ぶりにパレスチナを訪ねた。今回の旅の第一の目的は、オリーブ摘みの「援農」にあった。私たちが最初に訪ねたのはパレスチナのヨルダン川西岸(ウエスト・バンク)の北西部にあるカリキリヤの近くイスラエルとの境界線(グリーン・ライン)に接するジェイユースという村だった。この村は、イスラエルの占領政策の現在を最も顕著に象徴している場所と言える。イスラエルとの境界線からパレスチナ側に大きく食い込む形で建設された「隔離壁」(アパルトヘイト・ウォール)——これはコンクリート製ではなく有刺鉄線のフェンス——によって、樹齢何百年というオリーブの木が茂るパレスチナ人の農地が寸断され

たり、イスラエル側に切り裂かれるように奪い取られていく実態があらさまに見えてくる。私たちが最初にホームステイした農家の主は、イスラエルによって4年間投獄され5カ月前に出てきたばかり。彼は通行証が得られず、イスラエル軍の検問所を通過できないため、自分の農地にも入れず耕作することができない。この村では現在もイスラエル軍によって10人が逮捕され獄中にあるとされている。貴重な水源である本井戸も全て壁によってイスラエル側に接収されている。パレスチナ人が使用できる井戸もその使用水量が規制されている。勝手に井戸を掘ることも禁じられている。

私たちは、壁によってイスラエル側に取り込まれている農地に入って、早朝6時半から夕方4時半まで10時間、オリーブ・ピッキングにパレスチナ人とともに汗を流して働いた。「ラマダン」(イスラム教の断食月)の時期とあって朝食は事抜き、飲み食いも持たずに炎天下の労働はさすがにきつかったが、パレスチナの人々が占領下で味わっている苦境をほんのわずかながら体験し実感できたように思えた。結局、ジェイユース村では翌日午前中オリーブ摘みの援農をした。一日半を経験すると要領がつかめてくる。少しは手助けになったのだろうか。

ジェイユース村には「名士」と言えるシャリフ・オマルさんという人物がいる。彼は土地防衛委員会を代表して壁に寸断されたゲートの中の自分の農地に居を構え金曜日自宅に戻っている。そこで果物などを栽培しながら生活している。まさに「存在することが抵抗することである」ことを体現しながらイスラエルの占領・土地収奪を闘っている人だ。彼の自宅を訪ねた時、家屋破壊を止めようとしてイスラエル軍に虐殺されたアメリカ人女性レイチェル・コリーのポスター(「平和の闘士」と記されていた)が張られていたことが印象に残っている。

私たちが、壁によってイスラエル側に取り込まれている農地に入って、早朝6時半から夕方4時半まで10時間、オリーブ・ピッキングにパレスチナ人とともに

汗を流して働いた。「ラマダン」(イスラム教の断食月)の時期とあって朝食は事抜き、飲み食いも持たずに炎天下の労働はさすがにきつかったが、パレスチナの人々が占領下で味わっている苦境をほんのわずかながら体験し実感できたように思えた。結局、ジェイユース村では翌日午前中オリーブ摘みの援農をした。一日半を経験すると要領がつかめてくる。少しは手助けになったのだろうか。

ジェイユース村には「名士」と言えるシャリフ・オマルさんという人物がいる。彼は土地防衛委員会を代表して壁に寸断されたゲートの中の自分の農地に居を構え金曜日自宅に戻っている。そこで果物などを栽培しながら生活している。まさに「存在することが抵抗することである」ことを体現しながらイスラエルの占領・土地収奪を闘っている人だ。彼の自宅を訪ねた時、家屋破壊を止めようとしてイスラエル軍に虐殺されたアメリカ人女性レイチェル・コリーのポスター(「平和の闘士」と記されていた)が張られていたことが印象に残っている。

「自治区」であり、「パレスチナ国家」であり、将来的にパレスチナに残される領土が、分断され尽くした西岸の54%にすぎないとしたら、パレスチナ人にとってはどうして受け入れがたいものであろうか。「分離壁」にペンキで書かれた「存在すること」が抵抗することである」という表現は今のパレスチナ人の状況を象徴的に物語る。法的保護から排除された人々には、存在し続けることが抵抗の最後の手段となっている。

さらに逆説的に表現した。「イスラエルはパレスチナが持っているものを保持している。それは何かという①金、②メディア、そして③アメリカだ。そうなるほど納得した。イスラエルは、パレスチナ全土の22%に当たるヨルダン川西岸とガザに「独立国家」をつくることを認めようとはしていない。「自治」の名の下で占領地のバンツースタン化(アパルトヘイト時代の南アフリカ政府が設けた黒人ゲットー)による隔離とユダヤ人入植地の実質的な併合を進めようとしている。パレスチナの民衆は、まさに「持たざる者」だ。故国を失った難民は約460万人、パレスチナ全人口(約800万人)の実に半分以上であり、貧困層は約5割、失業者も約4割に達している。

私がパレスチナに連帯するのは、こうした「持たざる者」との国境を越えた連帯をモメント(拠り所)にする中で、自分自身を鍛えるためであり、自らの怒りを研ぎ澄まし、この世界を変えたいと思っているからだ。

西岸の中でも極めてイスラエルの抑圧にさらされている街・ナブルスにあるNGOの支援で運営されている診療所を訪ねた時、私たちに話してくれたことだが、オリーブは、パレスチナにとって農業の柱であるばかりではなく、社会的・歴史的な支柱なのだ。このことである。イスラエルはその樹齢5百年にもなるオリーブの木を根こそぎ奪い取り、しかもそれを干ばいで売っている。彼は「それは私の希望です」と。私は胸が熱くなる

「不在者財産法」や「土地収用法」といった法律の適用をどう進められるかの例があるが、まさに私たちが今回訪問しオリーブ・ピッキングの援農をしたジェイユース村の農民が直面している現実——イスラエル政府によって農地が切り裂かれ奪い取られようとしている。そのものに他ならない。そもそも占領地で占領者が入植することを住宅を建設したり「隔離壁」を建設すること自体が、国際法に違反した行為なのである。入植者の数は、パレスチナ自治政府の資料などによると、ヨルダン川西岸に約22万人、東エルサレムに約18万人、合計約40万人になり、93年の「オスロ合意」からの10年間で約2倍に増加している。イスラエル政府は、67年の第3次中東戦争でヨルダン川西岸とガザ地区を支配下に治めたことで、この占領地においても入植地建設をシオニズムの物理的支柱として推進してきた。西岸の丘という丘の上にはユダヤ人入植地が戦略的に(まるで軍事的な要塞のように)築かれ、飛び地状になった入植地を植者専用の幹線道路が結びつけている。こうしてパレスチナ人の居住地(コミュニティ)は、入植地と縦横に張り巡らされた入植者専用道路によってバラバラに切り裂かれ、孤島のようになったエリア間の移動はイスラエル軍の検問所(チェック・ポイント)によって規制されている。

11・3「持たざる者」の国際連帯行動が成功

200名が結集・渋谷デモ



11・3集会。決議文を読み上げる山谷争議団・荒木氏。



11・3集会。韓国から参加したホ・ヨングさん。

「貧困と社会的排除に抗し怒りの声を」と「競争社会をぶっ壊せ!」「新自由主義グローバル化に反対!」と戦争に反対!」

鮮やかな横断幕とフラカドが渋谷の繁華街で沿道の人々の注目を集める。「持たざる者」の声を聞け!」

「持たざる者は連帯して闘おう!」のシュプレヒコールが響きわたった。

11月3日「持たざる者」の国際連帯行動が200名の結集をもって成功裡に勝ち取られた。会場の東比呂区民会館で開かれた集会は各地から結集した仲間が熱気あふれる中で始まった。司会をなす比氏(山谷争議団)

者福祉活動委員会)のあいさつに続いて海外からのアピール。昨年11・3にも参加した許榮九(ホ・ヨング)さん(韓国民民主労総前主席副委員長、投機資本監視センター共同代表)の熱い連帯メッセージ(別稿)に参加者から圧倒的な拍手が送られた。韓国からは、さらに野宿者支援運動を担ってきたジョン・ウンイルさん(全国失職露宿者対策委員会・市民団体協議会)が文書でアピールを送ってくれた。「資本と経済のグローバル化は我々をバラバラにさせようとしてくる。貧富の差が広がっていく。はかりの中で我々

人の暗殺・逮捕も続いている」と、現状を報告した上で、オリーブ収穫時期に入った援農とホームステイ先での話、無料診療所で働く看護士が胸につけたパレスチナのバッジを見て「これは、私たちの希望です」と語ったことなど、印象深いエピソードも紹介しながら、「すべてのものを失っても希望を失ってないのがパレスチナの心だ。パレスチナは遠いが近い近いの問題ではない。パレスチナへ思いを馳せる目を養い、感性を養うことが我々に求められている。『パレスチナに自由を』を合言葉に連帯しよう」と結んだ。

フランスにおける「NOVOX」の連帯行動としてパリでの日本大使館抗議行動が報告され、「ともに行動しよう」という気運は高まっている」と、連帯の取り組みを訴えた。

休憩を挟んで、実行委員会に参加する呼びかけ団体や賛同団体からの連帯アピールに移る。

ATTAAC Japan、反資本主義行動(ACTA)、アジア共同行動日本連絡会議(AWC)、釜ヶ崎パトロールの会/大阪11・6「持たざる者」の連帯行動実行委員会、渋谷・野宿者の生活/居住権を勝ち取る自由連帯、隅田川野宿者有志、鈴木さんと共に行動の自由をとりもどす会、Asian People's Friendship Society (APFS)

S)、ジャマルさん(支援する会、統一獄中者組合、外事務局、戦争抵抗者の会、地域共同交流会から東京・中部地域労働者組合、フリーター全労協労働組合、全国日雇労働組合協議会より福島日雇労働組合)以上、各地の日雇い・野宿者連帯、外国人労働者、障害者、獄中者、難民支援、解雇撤回を闘う労働組合、反戦・反グローバル化を闘うグループが、各々の現場から思いのこもった提言を行った。集会の最後に山谷争議団の荒木氏より決議文(別稿)読み上げと行動提起がなされ、団結パンフレット閉会、渋谷・宮下公園までのデモ行進が開始された。この日の成果を打ち固め、11月釜山APEC、12月香港WTO粉砕を国境を越えた共同行動を闘おう!

11・6「持たざる者」の国際連帯集会勝ち取る

11・3を受けて、11月6日には「もうひとつの世界」を、社会的排除に抗して、新自由主義グローバル化と戦争に反対する「持たざる者」の国際連帯集会(別稿)が、エルドアンに50名の参加で勝ち取られた。関西の取り組みとしてはWSF報告集会に続くもの。集会では、東京の行動の報告が行われ、フッシュム来日(京都で首脳会談)を前に京都で野宿者追出し策動が激まっていることへの抗議、タイの訪問報告とビデオ上映、フランスの暴動についてのネットからの報告などの提起がなされ、フッシュム来日反対、釜山APEC、香港WTO反対闘争への合流が呼びかけられた。

新自由主義グローバル化のこの世界規模の弱肉強食システム市場力能主義の暴力は、社会の階層化と深刻な貧困を生み出している。総所得の半分以下を上位1割の高所得者が確保し下位2割の低所得者は全所得のわずか0・3%しか得ていない。平均収入が正規雇用の半分以下であるパート、アルバイト、フリーターなどの非正規雇用・不安定就労者は激増し、既に全労働者の3割、女性労働者では半数を超えている。移住労働者、失業者、日雇労働者、野宿者は、労働者としての基本的権利を奪われ、労働市場から排除されている。

存権を保障する責任を放棄し構造改革の名のもと、公共サービスの民営化や社会保障の切り捨てを進めている。財政基盤の弱い者は、就労構造から排除されるだけでなく、様々な社会的インフラからも排除され社会参加の機会を奪われた上に生存すら脅かされている。私たちは「社会的排除」を受け、「持たざる者」・「持たざる者」である。この「社会的排除」の中身、そして「持たざる者」の中身はそれぞれ多様である。しかし、共通の根本的な問題である「社会システム、新自由主義グローバル化」に「NO」を突き付け、今とは違う新しい社会を構築することは、共通の要求である。

持たざる民衆の世界規模の連帯により新自由主義グローバル化と戦争をこの世界から葬り去ろう。そして弱肉強食の競争社会ではなく、連帯に基づいた社会を構築しよう。

ホ・ヨングさんの講演

昨年の11・3集会を皆さんにお会いして1年ぶりです。韓国では1997年のIMF危機以降、失業者が増大し、多くの青年労働者も失業を強制されている。貧富の差は拡大するばかりで、絶対的貧困層は700万人に達し、路上の野宿者は非人間的な状況のなかで死んでいっている。非正規労働者は労働者全体の56パーセントを占め、その賃金は正規労働者の半分にも満たないのが現状だ。

こうしたなかで労働者の闘いは前進している。この間、大手財閥の現代自動車では、非正規労働者の権利

を勝ち取るために66日間にわたる工場占拠闘争が闘われた。当局は断水という卑劣な攻撃に出たが闘う労働者はトイレの水でしごき勝利した。労働者たちは爪の先まで、髪の毛の先まで闘って、意志を示した。今年の4月27日には貧困解決のための全国貧民大会が開かれた。ここでは、非正規労働者に正規職同様の安定した仕事と待遇を保障しろ、露天商への強制撤去・取締りをやめろ、ドヤ街撤去計画を撤回し公共賃貸住宅を改善しろ、障害者差別を撤廃し福祉予算を拡充しろ、米の市場開放反対・

りなされているのが現実なのだ。農村から都市に流入し、仕事につけない野宿者は、ドヤからも追いやられ駅や地下道などで野宿せざるを得ない。ところが、環境美化の名の下に強制排除が繰り返されている。一時的に施設に収容されても、大半は路上に戻さざるを得ない。この野宿者の現実にマスコミも市民も無視し、排除を後押しする中で、当局は現場に来て仲間の声を聞け、医療、住居の保障を行えと訴え、要求を突き付けている。

私たちは、労働者に貧困を強制し、野宿者に死を強制的に新自由主義政策に対して全面的な闘いに決起しなければならぬ。この11月の釜山APECに対しては、10万人の抗議闘争を準備している。さらに12月の香港WTOに対しては、韓国から労働者・農民の部隊で乗り込んで、アジアの民衆とともに闘い抜く決意だ。帝国主義者どもは、いつも言う。「アジアの平和のために」「世界の平和のために」と。しかし、奴らのやっていることは、抑圧と搾取のためだ。抑圧を民衆は見抜いている。「野宿者は一生懸命仕事をしないからだ」というが、それはうそだ。今の社会は働けば働くほど貧しくなるのが現実だ。今こそ、政府と資本家に対する闘いに立ち上がろう。

一国の中の闘いを越えて日韓・アジア民衆が連帯して新自由主義と対決し、釜山APEC、香港WTO粉砕へともに闘おう!

集会決議(抜粋)

●弱肉強食の新自由主義グローバル化と戦争に反対!

●貧困と「社会的排除」に抗し、怒りの声を!

●世界の「排除された者」「持たざる者」と結合・連帯しよう!

●搾取と不平等を促進・拡大するAPECとWTOに反対! 11月釜山、12月香港の国際連帯行動に合流しよう!

●イラク占領反対/自衛隊はイラクから撤退しろ!

●団結・連帯し、共に声を上げよう! 行動しよう!

沖縄新基地建設 日米合意弾劾!

ブッシュ来日に怒りの声を!

日米安保の再編 基地強化許すな

討に入ったという。97年の米軍用地特措法改悪が沖縄民衆の抵抗を叩きつづけたために強行されたことを忘れなければならない。

日米両政府は10月26日、沖縄・普天間基地移設による新基地建設を、名護市にあるキャンプ・シユワフの米軍兵舎地区から海上に突き出す形で建設することに合意した。この決定は、まさしく基地の県内たらい回しをもち、基地のない沖縄を求めた地元の声を踏みにじるものだ。新基地建設計画は断じて許されない。

元日米合意の再編は、米軍再編はスビドが大事だ」と宣言している。まさに日米一体化のために沖縄が犠牲になるのは当然のことではあるのか。

日米合意の再編は、米軍再編はスビドが大事だ」と宣言している。まさに日米一体化のために沖縄が犠牲になるのは当然のことではあるのか。

日米合意の再編は、米軍再編はスビドが大事だ」と宣言している。まさに日米一体化のために沖縄が犠牲になるのは当然のことではあるのか。

日米合意の再編は、米軍再編はスビドが大事だ」と宣言している。まさに日米一体化のために沖縄が犠牲になるのは当然のことではあるのか。

日米合意の再編は、米軍再編はスビドが大事だ」と宣言している。まさに日米一体化のために沖縄が犠牲になるのは当然のことではあるのか。

日米合意の再編は、米軍再編はスビドが大事だ」と宣言している。まさに日米一体化のために沖縄が犠牲になるのは当然のことではあるのか。

日米合意の再編は、米軍再編はスビドが大事だ」と宣言している。まさに日米一体化のために沖縄が犠牲になるのは当然のことではあるのか。

日米合意の再編は、米軍再編はスビドが大事だ」と宣言している。まさに日米一体化のために沖縄が犠牲になるのは当然のことではあるのか。

日米合意の再編は、米軍再編はスビドが大事だ」と宣言している。まさに日米一体化のために沖縄が犠牲になるのは当然のことではあるのか。

日米合意の再編は、米軍再編はスビドが大事だ」と宣言している。まさに日米一体化のために沖縄が犠牲になるのは当然のことではあるのか。

日米合意の再編は、米軍再編はスビドが大事だ」と宣言している。まさに日米一体化のために沖縄が犠牲になるのは当然のことではあるのか。



10月23日、渋谷をデモする反戦闘争米の隊列。



10月31日、防衛庁前で抗議・申し入れ行動。

10・21国際反戦反基地集会 23反戦闘争勝ち取る

10月21日、国際反戦反基地集会在東京・日比谷野外音楽堂で約5000人が参加して行われた(主催・集会実行委員会)。

集会は、平和フォーラムなど労組や市民団体が合同して準備されたものだが、久々に野音が埋め尽くされ、危険感がみなぎる雰囲気の中で開催された。発言した海外代表は、韓国のピョンテク(平澤)基地拡張に反対する住民団体をはじめ、グアムの先住民運動、ミンダナオ島の米軍の「対テロ」作戦に反対するフィリピンのグループ、オーストラリアの反基地全国連合など。さらに、沖縄からヘリ基地反対協議会の安次富浩さんが、新基地建設阻止の闘いへの支援・連帯を訴え、各国代表も、多彩なシュプレコールを行って、抗議の声を叩きつけた。

集会は、平和フォーラムなど労組や市民団体が合同して準備されたものだが、久々に野音が埋め尽くされ、危険感がみなぎる雰囲気の中で開催された。発言した海外代表は、韓国のピョンテク(平澤)基地拡張に反対する住民団体をはじめ、グアムの先住民運動、ミンダナオ島の米軍の「対テロ」作戦に反対するフィリピンのグループ、オーストラリアの反基地全国連合など。さらに、沖縄からヘリ基地反対協議会の安次富浩さんが、新基地建設阻止の闘いへの支援・連帯を訴え、各国代表も、多彩なシュプレコールを行って、抗議の声を叩きつけた。

集会は、平和フォーラムなど労組や市民団体が合同して準備されたものだが、久々に野音が埋め尽くされ、危険感がみなぎる雰囲気の中で開催された。発言した海外代表は、韓国のピョンテク(平澤)基地拡張に反対する住民団体をはじめ、グアムの先住民運動、ミンダナオ島の米軍の「対テロ」作戦に反対するフィリピンのグループ、オーストラリアの反基地全国連合など。さらに、沖縄からヘリ基地反対協議会の安次富浩さんが、新基地建設阻止の闘いへの支援・連帯を訴え、各国代表も、多彩なシュプレコールを行って、抗議の声を叩きつけた。

集会は、平和フォーラムなど労組や市民団体が合同して準備されたものだが、久々に野音が埋め尽くされ、危険感がみなぎる雰囲気の中で開催された。発言した海外代表は、韓国のピョンテク(平澤)基地拡張に反対する住民団体をはじめ、グアムの先住民運動、ミンダナオ島の米軍の「対テロ」作戦に反対するフィリピンのグループ、オーストラリアの反基地全国連合など。さらに、沖縄からヘリ基地反対協議会の安次富浩さんが、新基地建設阻止の闘いへの支援・連帯を訴え、各国代表も、多彩なシュプレコールを行って、抗議の声を叩きつけた。

集会は、平和フォーラムなど労組や市民団体が合同して準備されたものだが、久々に野音が埋め尽くされ、危険感がみなぎる雰囲気の中で開催された。発言した海外代表は、韓国のピョンテク(平澤)基地拡張に反対する住民団体をはじめ、グアムの先住民運動、ミンダナオ島の米軍の「対テロ」作戦に反対するフィリピンのグループ、オーストラリアの反基地全国連合など。さらに、沖縄からヘリ基地反対協議会の安次富浩さんが、新基地建設阻止の闘いへの支援・連帯を訴え、各国代表も、多彩なシュプレコールを行って、抗議の声を叩きつけた。

集会は、平和フォーラムなど労組や市民団体が合同して準備されたものだが、久々に野音が埋め尽くされ、危険感がみなぎる雰囲気の中で開催された。発言した海外代表は、韓国のピョンテク(平澤)基地拡張に反対する住民団体をはじめ、グアムの先住民運動、ミンダナオ島の米軍の「対テロ」作戦に反対するフィリピンのグループ、オーストラリアの反基地全国連合など。さらに、沖縄からヘリ基地反対協議会の安次富浩さんが、新基地建設阻止の闘いへの支援・連帯を訴え、各国代表も、多彩なシュプレコールを行って、抗議の声を叩きつけた。

集会は、平和フォーラムなど労組や市民団体が合同して準備されたものだが、久々に野音が埋め尽くされ、危険感がみなぎる雰囲気の中で開催された。発言した海外代表は、韓国のピョンテク(平澤)基地拡張に反対する住民団体をはじめ、グアムの先住民運動、ミンダナオ島の米軍の「対テロ」作戦に反対するフィリピンのグループ、オーストラリアの反基地全国連合など。さらに、沖縄からヘリ基地反対協議会の安次富浩さんが、新基地建設阻止の闘いへの支援・連帯を訴え、各国代表も、多彩なシュプレコールを行って、抗議の声を叩きつけた。

集会は、平和フォーラムなど労組や市民団体が合同して準備されたものだが、久々に野音が埋め尽くされ、危険感がみなぎる雰囲気の中で開催された。発言した海外代表は、韓国のピョンテク(平澤)基地拡張に反対する住民団体をはじめ、グアムの先住民運動、ミンダナオ島の米軍の「対テロ」作戦に反対するフィリピンのグループ、オーストラリアの反基地全国連合など。さらに、沖縄からヘリ基地反対協議会の安次富浩さんが、新基地建設阻止の闘いへの支援・連帯を訴え、各国代表も、多彩なシュプレコールを行って、抗議の声を叩きつけた。

集会は、平和フォーラムなど労組や市民団体が合同して準備されたものだが、久々に野音が埋め尽くされ、危険感がみなぎる雰囲気の中で開催された。発言した海外代表は、韓国のピョンテク(平澤)基地拡張に反対する住民団体をはじめ、グアムの先住民運動、ミンダナオ島の米軍の「対テロ」作戦に反対するフィリピンのグループ、オーストラリアの反基地全国連合など。さらに、沖縄からヘリ基地反対協議会の安次富浩さんが、新基地建設阻止の闘いへの支援・連帯を訴え、各国代表も、多彩なシュプレコールを行って、抗議の声を叩きつけた。

石川さんと共に第3次再審へ! 10・30狭山現地集会



10月30日狭山、石川さんと鎌田さんの対談。

10月30日、狭山事件の再審を求める市民集会在狭山市・旧入間川小学校跡地で全国から約2000人が参加して行われた(主催・市民集会実行委員会)。

共謀罪の成立を阻止! 大衆運動の力で悪法に止めを

政府・法務省は9月から特別国会で共謀罪の成立を強行しようとしたが、今度も断念を迫らなければならない。断念を迫らなければならない。断念を迫らなければならない。

政府・法務省は9月から特別国会で共謀罪の成立を強行しようとしたが、今度も断念を迫らなければならない。断念を迫らなければならない。断念を迫らなければならない。

動き出す国民保護法 福井県実働訓練反対

10月20日、治安出動を想定した自衛隊と警察による初めての共同訓練が、福井県で行われた。この訓練は、国民保護法に基づいて行われるもので、住民の避難誘導や交通規制・行動規制・排除が目的とされている。

10月20日、治安出動を想定した自衛隊と警察による初めての共同訓練が、福井県で行われた。この訓練は、国民保護法に基づいて行われるもので、住民の避難誘導や交通規制・行動規制・排除が目的とされている。